

第21回宝塚市子ども議会

提案・要望事項への対応状況について



令和6年（2024年）1月

宝塚市

目次

良元小学校	6年	高橋 舞	・・・1
宝塚第一小学校	6年	岩堀 武夫	・・・2
小浜小学校	6年	阪本 梨阿	・・・3
仁川小学校	6年	中井 朋津	・・・4
壳布小学校	6年	土肥 由茉	・・・5
長尾南小学校	6年	宮部 琴音	・・・7
中山台小学校	6年	森居 優太	・・・8
長尾台小学校	6年	赤松 遼珂	・・・9
小林聖心女子学院小学校	6年	建石 ゆかり	・・・10
宝塚第一中学校	3年	前村 江美	・・・11
宝塚中学校	3年	高 雨橋	・・・12
長尾中学校	3年	内藤 早瑛	・・・14
西谷中学校	3年	門脇 元気	・・・15
小林聖心女子学院中学校	3年	伊藤 葵	・・・16
宝塚高等学校	2年	藤原 愛	・・・17
宝塚北高等学校	2年	池田 蒼生	・・・18

担当部：教育委員会（施設課）

議員名	高橋 舞	テーマ	校舎の老朽化を直してほしい
質問・提案内容（あらし）と答弁後の対応			
質問（提案）： 私は、良元小学校が大好きです。毎日楽しく通っています。しかし、残念なことに校舎のところどころにひびが入っていたり、ペンキがはがれている所や、欠けている所もあります。良元小は歴史あるすばらしい所ですが、最近、「老朽化」してきています。なので私は大好きな良元小をもっとすてきな所になるように、古くなった場所を直してほしいです。校舎がきれいになると良いことがたくさんあると思います。それらの中から3つ説明します。1つ目は、危ない所がなくなることです。ひびが入っていたり、ペンキがはがれてしまっていたら、ふつうにしているても危ないし、地震があつたりしたらとても危ないです。ひびわれは、ろう下や階段や教室にもあります。目にとめると、大丈夫かな、と思います。2つ目は、ペンキなどをぬり直すことによって、ろう下が明るくなります。すると、ルールを破って、ろう下を走ったり、走ってぶつかることも少なくなると思います。そしてけがをしてしまう人が少なくなると安心です。3つ目は、新1年生が安心して気持ちよく入学できるということです。校舎を新しくきれいにすることで、新1年生が安心して友達と仲良く楽しくできる気分になれます。このように学校がきれいになることで、学校全体の補強ができ、地震などがあつても、大丈夫になります。そうすると、みんなが安心して楽しくできる学校になります。なので、宝塚市の学校の老朽化を直す工事をお願いしたいです。			
答弁： 良元小学校は、1874年（明治7年）に開校した本市の小学校の中でも歴史のある学校です。今の校舎は約60年前に建てられたものですが、大規模改修や地震が来ても建物が壊れないように耐震化補強の工事も終わっています。 古い校舎ですので、壁にひび割れやペンキの剥がれなどがありますが、毎年、定期的実施している点検や調査の結果から、地震が来ても建物が崩れるようなひび割れではなく、表面的なものでした。 大規模な改修工事は、市内にある学校を順番に実施していますので、次の順番までの間、壊れたところなどは、日頃の点検で見つけて、その都度修理をしていきます。 壁のひび割れやペンキの剥がれなど、壊れたところをみつけた場合は、まず、先生に伝えてください。現場を確認して、気持ちよく学校生活を送れるように、綺麗に修理していきたいと思ひます。			
進捗状況： 実施予定			
進捗状況説明欄： ご指摘の壁のひび割れやペンキの剥がれについては、これ以上劣化が進まないよう屋上防水を実施しました。また、子どもたちが廊下でぶつかることがないように、順番に今より明るいLED照明に交換を進めています。 学校を工事することについて、すぐに決定できませんが、決定するまでの間、安心して気持ちよく学校生活を送れるよう対策を行っていきます。			
教育委員会（施設課）			

担当部課：都市安全部（公園河川課）

議員名	岩堀 武夫	テーマ	ボールを使って遊べる場所
質問・提案内容（あらし）と答弁後の対応			
質問（提案）： <p>ぼくは、「ボール遊びができる場所」が必要だと考えています。なぜなら、校区内にボールを使って遊べる公園がないからです。クラスのみんことや友達に聞いてみると、多くの方がボールを使って遊べる環境を望んでいました。ぼくたちの校区には、武庫山二丁目公園と湯本台広場があります。お気に入りの公園ですが、ボールを使って遊ぶことができません。その理由として、マンションや住んでいる人が多く、迷惑になるからだと思います。ぼくたちは、ボール遊びが大好きです。コロナウイルスのえいきょうで、家で過ごすことが増えました。住んでいる近くで、ボールを使って遊ぶことができれば、ストレスを解消し、もっと元気に過ごせると思います。この願いを実現するために、次のように考えています。一つ目は、ボールを使用できる日や時間を設定することです。公園でゆっくり過ごしたいと思う人もいます。そして、ぼくたちのように、ボールを使って遊びたいという人もいます。それぞれの思いを調整することは有効だと思います。二つ目は、公園にさくを設置することです。今の環境ではボールが飛び出て、近くに住んでいる人に迷惑がかかるからです。子どもたちが楽しく過ごしやすいことは、宝塚市にとってメリットの一つになると思います。ぼくたち子どもの思いを知ってもらえれば嬉しいです。よろしく願いいたします。</p>			
答弁： <p>ボール遊びができる場所につきましては、岩堀議員の校区にある、武庫山2丁目公園と湯本台広場は、どちらもボール遊びをするには広場のスペースが狭く、広場の周りにはベンチなどもあるため、他の公園利用者の方もいる中で、この2つの公園で、思い切りボール遊びをすることは難しいと考えます。</p> <p>本市には、ボール遊びができる公園が、グラウンドを含めて7箇所あり、岩堀議員の校区には、武庫山2丁目わくわくランドがあります。</p> <p>また、岩堀議員のボールを使用できる日や時間を設定するご提案は、よい考えだと思います。この2つの公園の主な利用者は、地域の方だと思いますので、ご提案について地域の方にお伝えして、よく話し合っけて検討していきたいと思います。</p> <p>次に、公園からボールが飛び出さないように柵を設置することについてですが、公園に新しく高さのある柵を設置するには、大掛かりな工事が必要となります。</p> <p>この2つの公園以外でも、高い柵の設置が可能と思われるある程度大きな公園については、地域の子供たちがボール遊びがしたいということをお伝えして、よく話し合っけて検討していきたいと思います。</p>			
進捗状況： <p style="text-align: center;">実施済</p>			
進捗状況説明欄： <p>ボールを使用できる日や時間を設定することについて、地域の方へお伝えさせていただきましたが、誰がどのように管理するかといった課題もあり、実現には至っていません。</p> <p>また、柵の設置については、令和5年度中に地域から要望のあった公園で、ボールが飛び出さないよう高い柵を設置しました。</p> <p>今後もみなさんが公園で楽しく過ごしてもらえよう、地域の方と話し合っけていきたいです。</p>			
都市安全部（公園河川課）			

担当部課：都市安全部（公園河川課）

議員名	阪本 梨阿	テーマ	高架下公園の遊具や設備について
-----	-------	-----	-----------------

質問・提案内容（あらまし）と答弁後の対応

質問（提案）：

ぼくは、小浜小校区の高架下公園について話します。なぜこのテーマにしたかという、遊具の老朽化が進んだり、夕方になってくると暗くてこわいという理由からです。まず遊具の老朽化について話します。前に、バスケのゴールが折れたと言う事がありました。長年使っていたための老朽化です。なので、古くなった遊具やゴールを新しい物に変えてほしいです。次に、公園の電気についてです。電気は、あるにはあるのですが、数が少ないため、不審者に狙われやすいのです。なので、電気を増やしてほしいです。次に時計についてです。だれもが時計を持っているわけではありません。なので、気軽に見れる時計がほしいです。公園の地面についてです。高架下の地面は、とてもでこぼこしています。サッカーコートもそうです。砂などでうめて平らにしてほしいです。そうしてもらった後に、ぼくらができる事は、遊具を大切に、ラクガキをしない。そして、決められた時間に帰ると言う事をやっていきたいと思います。そして、ぼくは計画委員会なので、毎月テレビ朝会をします。その場所で、小浜小のみなさんに言う事もできます。

たくさんお願いしてきましたが、なによりぼく達ができる事をしていき、宝塚市という街をよりよい街にしていきたいと思えます。

答弁：

米谷高架下子ども遊園の遊具につきましては、複合遊具や滑り台、ブランコ、砂場、ザイルクライミング、また、バスケットゴールやフットサルゴール、大人が使う健康遊具など、たくさんの遊具がある公園です。これらの遊具は、設置してから年数が経ち、多少、老朽化は進んでいますが、年に1回、専門家による安全点検を行っており、遊具の安全は確認していますので、安心して大切にに使っていただきたいと考えています。

次に、公園の電気の明るさについては、一定の基準があります。基準を超えて明るくすると、近所に住む方にとっては夜、明るすぎて眠れなくなるなどの可能性があるため、公園の明るさを調査したうえで、対応を検討します。

次に、時計についてですが、本市には約360箇所の公園などがあり、全てに時計を設置して、維持管理することは難しいため、公園利用者の多い末広中央公園などの大きな公園や、地域の方が自主的に時計を設置し、管理していただいている場所以外は、ほとんど設置されていません。公園を利用される時には、時計や携帯電話を持っているお友達に時間を聞いてください。また、帰る時には、周りで遊んでいる子ども達にも声をかけてあげてください。

次に、公園の地面についてですが、阪本議員のご指摘のとおり、中国自動車道の高架から雨水が落ちて、サッカーコートなどの地面がぬかるみ、でこぼこになっているところがありますので、砂を入れて平らにする工事をしたいと考えています。また、サッカーゴールのネットも破れて、修理ができない状況になっているので、新しいネットと交換する予定です。

阪本議員がおっしゃるように、これからも遊具を大切にさせていただきますようお願いいたします。

最後に、阪本議員の「なにより宝塚市をよりよい街にしていきたい」というご意見は大変うれしく思います。一緒に宝塚市をより良い街にしていきたいです。

進捗状況：

実施済

進捗状況説明欄：

電気の明るさについては、基準を満たしていると判断したこと、近所に住んでいる方のご迷惑を考え、今のままとします。

遊具については、北側の2連ブランコ・鉄棒・滑り台・ジャングルジムの塗装をし直しました。

サッカーについては、ゴールを新しいフットサルゴールにしました。また、コートについては、令和5年度に砂を入れて平らにする工事を行いました。

都市安全部（公園河川課）

担当部課：都市安全部（防犯交通安全課、道路管理課）、教育委員会（学校教育課）

議員名	中井 朋津	テーマ	通学路をもっと安全に
質問・提案内容（あらし）と答弁後の対応			
<p>質問（提案）：</p> <p>僕は、「通学路をもっと安全に」を提案します。これには、2つの方法があり、1つ目は、午前7時半から午前8時半までの、登校の時間と、午後3時から午後4時までの下校の時間の間だけ、あぶない通学路を通行止めにするというものです。また、その時間帯を無視して、車が入ってこないように、警察や、地域の方などがみまもりする制度も作るといいと思います。そして、2つ目は、歩道や、ガードレールを設置するというものです。これは、名前の通り、細い道やあぶない道などに歩道やガードレールを設置するというものです。そしてなぜこのようなことを提案するかというと、僕自身が班長で、いつも通学路を通るとき、せまいなと思いながらいつも通っていたからです。</p>			
<p>答弁：</p> <p>通学路の通行止めなどの交通規制については、学校や地域の方などからのご要望を受けて、自動車などが通学中の皆さんに与える危険性を調査し、地域の方のご理解を得た上で、警察が通行止めなどの交通規制を行っています。</p> <p>なお、今回の子ども議会でもいただいたご提案については、情報として市から宝塚警察署にお伝えします。市としては、これからも交通安全教室の開催などの交通事故防止に向けた取組を行っていきませんが、皆さんには、交通ルールを守り、交通事故に遭わないよう注意していただくことをお願いします。次に、歩道やガードレールの設置についてですが、仁川幼稚園から仁川小学校までの区間については、道路の幅が比較的広いことから、道路の端を色分けしたグリーンベルトを設置して、歩行者の通行ルートを分かりやすく表示しています。一方で、仁川幼稚園から北側の区間については、道路の幅が狭く、グリーンベルトや歩道、ガードレールの設置はできませんが、学校や地域の方からの要望があれば地面に注意を促すマークの設置を検討してまいります。</p> <p>通学路をもっと安全に、につきましては、本市では、「宝塚市通学路交通安全推進会議」が作成した「宝塚市通学路交通安全プログラム」に基づき、学校、地域、PTA、道路管理者、警察署、教育委員会が協力し、合同点検を実施しています。そこで確認をした危険な場所については、学校や保護者、地域のご意見を参考に、対応を考えていきます。</p> <p>さらに、家庭や地域の協力を得て、登下校の見守りもお願いし、子どもたちの登下校の安全確保に努めています。私たち教育委員会では、今後も家庭や地域、関係機関とも協力しながら児童生徒の通学の安全対策に取り組んでいきます。</p> <p>また、中井議員が班長をつとめる登校班では、地区ごとに集まり、安全について学習されています。先生や地区委員が、安全について指導するほか、児童同士で危険箇所について話し合うことで、車や自転車に注意しながら、安全に登下校することを願っています。</p>			
<p>進捗状況：</p> <p style="text-align: center;">実施済</p>			
<p>進捗状況説明欄：</p> <p>今回ご提案いただいた、通学路の通行止めなどの交通規制については、所管する宝塚警察署にお伝えしました。</p>			
都市安全部（防犯交通安全課）			
<p>進捗状況：</p> <p style="text-align: center;">未実施</p>			
<p>進捗状況説明欄：</p> <p>令和5年度に仁川小学校の通学路合同点検を実施しましたが、学校や地域の方からの要望はありませんでした。今後も合同点検等を通じて、必要な安全対策を検討していく考えです。</p>			
都市安全部（道路管理課）			
<p>進捗状況：</p> <p style="text-align: center;">実施済</p>			
<p>進捗状況説明欄：</p> <p>市内の各小学校では、2年に1回の頻度で通学路の合同点検を行っています。仁川小学校は、令和5年度に実施済です。</p>			
教育委員会（学校教育課）			

担当部課：産業文化部（商工勤労課、農政課）、教育委員会（学校給食課）

議員名	土肥 由菜	テーマ	宝塚市の名物を知ってほしい
-----	-------	-----	---------------

質問・提案内容（あらまし）と答弁後の対応

質問（提案）：

まず私が提案するのは、「宝塚市の名物をもっとPRする」ということです。宝塚市は「宝塚歌劇」「手塚治虫記念館」や「中山寺（お寺）」「ダリア」などが有名ですね。色々な文化、きれいな自然。すてきなところがたくさんあります。しかし、宝塚の名物のことはあまり、知られていないように感じます。名物があると、それを買いにたくさんの方が来ると思います。そして、宝塚市がさらに明るく、にぎやかになります。そして、宝塚の名物として、たくさんの方に知ってほしいのは、西谷の野菜と和がしです。では、その名物のPRをどうやってすればいいか、について3つの提案をします。1つ目は、掲示板や学校からの手紙でパンフレットを配布する、ということです。そのパンフレットは、写真を使って分かりやすく、その名物のポイントなどを書くことにより目にとまりやすくなると思います。2つ目は、和がしの作り方や野菜を使った料理の体験会を開く、ということです。和がしなどの作り方（どこを工夫しているのか）を知ることによって、よりおいしさを感じられるのではないのでしょうか。3つ目は、宝塚産の野菜などを使った、料理コンテストを開く、ということです。家族や友達と宝塚産の野菜などを使って、料理をします。できあがった料理の写真やレシピをコンテストに出し、よりたくさんの方に宝塚の野菜を知ってもらい、ということです。三田市では、このようなことをしていると聞いたので、ぜひ宝塚市でもやってみてください。

答弁：

まず、西谷の野菜と和菓子を知ってもらうための取組のうち、西谷の野菜に関する取組につきましては、西谷の農家の方が朝早くに収穫した新鮮な朝採れ野菜を市の農業振興施設である「西谷夢市場」で販売しているほか、市役所横の武庫川河川敷公園や宝塚市立文化芸術センターを会場として、それぞれ月1回開催する「宝塚朝市」や「たからの市」において、農家の方が直接朝採れ野菜を販売する機会を通じて、市民の皆様へ西谷野菜の美味しさや新鮮さを知ってもらえるよう、PRを行っています。このほか、市内のスーパーマーケットなどでも市内産を含む近郊地で作られた新鮮な野菜を販売しているコーナーがあります。市民の皆様が市内産を優先的に購入いただくことは生産者である農家の方の励みにもつながります。子ども議員の皆さんも野菜を購入するときには、どこの地域で生産されているのかも注目してほしいと思います。

また、和菓子についてですが、以前、和菓子屋さんにお話を伺った際、若い世代の和菓子離れを心配されていました。今回、土肥議員が和菓子に注目してくださったこと、私もうれしく感じています。本市では、西谷の野菜や和菓子をはじめ様々な「宝塚ならでは！」の魅力を掲載する宝塚ブランド「モノ・コト・バ宝塚」において、炭酸せんべいなど和菓子17品を選定しPRに努めています。今後も「モノ・コト・バ宝塚」や市ホームページへの掲載、定期的な発行する特集誌を通して市内外に発信を行うことにより、多くの方々に本市の魅力ある名物を知ってもらえる機会となるよう取り組んでいきます。次に、「和菓子の作り方や野菜を使った料理の体験会を開く」取組につきましては、2019年度までは、野菜を使った料理体験会や和菓子の手づくり教室を実施してきましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、現在は実施できていません。そのため、今年度は、和菓子については販売店舗の方などにインタビューを行い、その内容をパンフレットとしてまとめ、西谷産の野菜については西谷の農家の方に、その作り方やレシピを取材し、ご家族やお友達と一緒に料理を楽しんでいただけるよう、写真と一緒に紹介することなどを検討していきます。これからも西谷産の野菜や市内で作られている和菓子を含む名物に興味を持ち続けてほしいと思います。

宝塚市の名物を知ってもらいたいにつきましては、市立小中学校の給食で西谷産の野菜を夏から冬にかけて年に数回使用し、地産地消の取組を行っています。この西谷産の野菜の使用にあわせて、その特徴や生産農家の方々のインタビューを記事にして校内に掲示したり、学校から配布している給食だよりなどで西谷産の野菜を紹介するなど、学校給食を通して西谷産の野菜を知ってもらうよう取り組んでいます。

また、本市の特産物である「宝塚ねぎ」の給食献立を料理レシピサイトの「クックパッド」で紹介しています。その他、給食献立の作り方を食育動画としてまとめた「おさらい給食」を市のホームページに載せていますが、この食育動画でも西谷産の野菜を紹介しています。皆さんも是非一度ご覧になり、家で作ってみてください。

そして、土肥議員からご提案のあった宝塚産の野菜などを使った料理コンテストにつきましては、本市の野菜を多くの人に知ってもらえるだけでなく、地元食材を活用した食育の推進にも大変有効な取組ですので、教育委員会においても実施について考えていきます。

進捗状況：

実施済

進捗状況説明欄：

2022年度に炭酸せんべいを中心に、「モノ・コト・バ宝塚」に選定されている和菓子を集めたパンフレットを作成し、市内の各小中学校に計約11,000枚を配布しました。パンフレットでは提案のあったとおり、炭酸せんべいの作り方等を写真を用いて表現しました。また、作業風景を収めた動画も作成し、市公式Youtubeにて公開しています。

産業文化部（商工勤労課）

進捗状況：

実施済

進捗状況説明欄：

広報たからづか10月号の特集ページで西谷の農産物について紹介し、その中で「教えて！地産地消レシピ」として西谷の農家の方などに紹介してもらったレシピを写真と一緒に掲載しました。季節の野菜を使った料理を、ご家族やお友達と一緒に楽しんでいただけていたらうれしいです。

産業文化部（農政課）

進捗状況：

実施済

進捗状況説明欄：

土肥議員からご提案のあった宝塚産の野菜などを使った料理コンテストにつきましては、令和5年度夏に「宝塚市地産地消料理コンテスト」を開催しました。全部で49名の応募があり、小学生の部・中学生の部それぞれで最優秀賞、優秀賞、給食賞を決定しました。

教育委員会（学校給食課）

担当部課：教育委員会（学校給食課）

議員名	宮部 琴音	テーマ	給食の飲み物について
-----	-------	-----	------------

質問・提案内容（あらまし）と答弁後の対応

質問（提案）：

今の学校の給食では、飲み物が牛乳です。ご飯のときもです。ご飯と牛乳って合うと思いますか？私は好きではありません。なので、今回はこのテーマで提案しました。そこで私は米飯のときはお茶にした方がいいと思いました。牛乳は、飲めない子や苦手な子も多数います。なので牛乳が残って廃棄されてしまいます。さらに200mlという多さで1、2年生の子たちは「牛乳だけでお腹いっぱいになる」という子もいました。そこで調べてみると少し少なめの125mlのお茶がありました。それは紙パックでエコになっていました。なので丁度いいと思いました。そして足りないカルシウムはチーズやじゃこなどで補えばいいと思います。パンと牛乳は洋食で、洋食は洋食でいいと思うのですが和食は洋の牛乳は入れずにお茶や水にした方が美味しく食べられると思いました。今回は牛乳のことで提案しましたが今戦争をしている国があります。そこで輸入に規制がかかっていて食料が入りにくくなってきています。なので輸入に頼らず日本の自給率を少しでも上げて食べ物に困らない国になってほしいです。そうするためにはまずお茶、水を優先して飲むといいのではないのでしょうか。

答弁：

給食の飲み物につきましては、学校給食は、児童、生徒の皆さんの心身の健全な発達につながるよう、学校給食法という法律や、その細かな内容を定める規則に基づいて実施しており、本市では、小中学校ともに、それぞれの学校に給食室を整備する自校調理場方式により、パンか米飯の主食におかずである副食と牛乳を提供する完全給食を実施しています。また、家庭では摂りにくいカルシウムなどの栄養素は、1日に必要な栄養素の半分の量を学校給食で摂れるようにするなど、子ども達の成長に欠かせない栄養素を中心に摂取基準が定められており、その基準を満たすように献立が作られています。その中でも牛乳は、皆さんの体を作るのに大切なたんぱく質、カルシウム、ビタミン群が豊富に含まれており、学校給食で摂ってほしい栄養素を効果的に摂ることができます。また、学校給食で提供している牛乳は全て国内産ですので、安心して飲んでください。

一方、牛乳をお茶かお水に替えた場合、牛乳で補っていた栄養素を他の食料で賄うことになり、相当、多くの食材が必要になります。

こうしたことから、効果的にカルシウムなどの栄養素を摂ることができる牛乳を提供しています。

小中学生では、普段の学校給食で牛乳を飲んでいることから、カルシウムの摂取率が非常に高いのですが、高校生になると学校給食もなくなり、牛乳を飲む機会が一気に減ることから、カルシウムの摂取率が低くなる傾向にあります。

確かに家庭では考えにくい米飯と牛乳の組み合わせではありますが、成長過程における児童生徒の必要な栄養素をバランスよく確保するためには、牛乳の提供は欠かせないものです。

今後も輸入に頼らず日本の自給率を上げるように、国内産の牛乳の使用や国内産の食材調達に努めていきます。

進捗状況：

実施済

進捗状況説明欄：

学校給食における牛乳の役割をより多くの人に知ってもらうために、毎月発行している給食だよりで牛乳の役割を広く周知していきます。令和5年度では小学生向けの6月号で乳類についての記事を掲載しました。また、普段、給食で提供している食材についても原則国産のものを使用していますが、引き続き国産や地場産物の使用に努めていきます。

教育委員会（学校給食課）

担当部課：企画経営部（施設マネジメント課）

議員名	森居 優太	テーマ	中山五月台小学校の活用
-----	-------	-----	-------------

質問・提案内容（あらし）と答弁後の対応

質問（提案）：

僕が宝塚市に提案するのは、旧中山五月台小学校の活用です。昨年度末、僕が通っていた桜台小と、五月台小の2校は統合し、中山台小学校になりました。校舎は桜台小のものを利用しているため、五月台小は現在空き家状態です。まだまだ使える遊具や広い校庭や校舎が残っているにも関わらず、それを使わないで放置するのは、あまりにもったいないのではないのでしょうか。そこで僕は、五月台小の活用方法をいくつか考えました。一つ目は、大型遊具のある広い校庭を、みんなが使える公園として開放することです。僕が住んでいる桜台・五月台地区は子どももお年寄りも大勢いますが、コロナ禍で人々の関わり合いは希薄になっています。もしあの校庭が公園になれば、みんなが体を動かすことができる憩いの場になるのではないのでしょうか。校舎は一部を児童館にして、子どもたちの遊び場と、子どもを預けることができる施設にするのはどうでしょうか。さらに、校舎はワクチンの接種会場や、PCR検査センターとしても活用することが可能だと考えます。先ほども言ったように、僕が住んでいる地区はお年寄りが多いです。近くに接種会場があれば、助かると思うし、接種をする人の割合も高まると考えます。今は収束しかけているようにも見えるコロナウイルスですが、いつまた波が来るか分かりません。みんなが安心して楽しく暮らせる住みよい街になるように、僕は旧五月台小学校の利用を提案します。

答弁：

旧中山五月台小学校の建物を含む跡地利用について、この度は、公園や児童館、ワクチン接種会場並びにPCR検査センターなど、子どもだけでなく、地域の高齢者の方や子育て世代の方と様々な世代が利用でき、コロナ禍で関わり合いが希薄となっている地域の方々が交流できるような、地域の状況や課題を踏まえた活用方法をご提案いただきありがとうございます。

旧中山五月台小学校の跡地利用について、校舎については、先月行われた参議院議員選挙の投票所として一時的に使用したほか、グラウンドや体育館については、しばらくの間、地域のスポーツクラブに開放するなど、有効活用を図っています。

今後の跡地利用については、本市の方針において、広く社会の利益となるような土地利用に取り組むこととしており、グラウンドや校舎の利用については、本市だけでなく民間事業者などの力を借りることも考えながら検討を始めています。

引き続き、地域の方に意見を聞きながら、隣の旧中山五月台幼稚園の跡地も含め、これからの社会の利益となり、みんなが安心して楽しく暮らせる住みよい街になるよう検討を進めていきます。

進捗状況：

未実施

進捗状況説明欄：

旧中山五月台小学校（及び旧中山五月台幼稚園）の跡地利用については、民間事業者などの力を借りることも含めて庁内検討会を設置し、検討を進めているところです。今後、地域の方に意見を聞いたりしながら、引き続き本市の方針のとおり、これからの社会の利益となり、みんなが安心して楽しく暮らせる住みよい街になるよう取り組んでいきます。

企画経営部（施設マネジメント課）

担当部課：市民交流部（医療助成課）

議員名	赤松 遼珂	テーマ	全世帯子ども医療費を所得制限なく無料に
-----	-------	-----	---------------------

質問・提案内容（あらし）と答弁後の対応

質問（提案）：

僕は、宝塚市在住の全世帯の子どもの医療費を所得制限なしに無料にすることを提案します。なぜこのことを提案しようと思ったかという、僕は生まれてから2度目の引っ越しで宝塚市にきました。これまで、埼玉県と明石市に住んでいて、どちらも子どもの医療費が全世帯所得制限なく無料でした。さらに明石市は18歳、高校卒業まで無料になります。宝塚市に来て最初に病院に行った時に、母が病院でお金を払っているのを見て驚いた覚えがあります。なぜ、住んでいる市によって、こういった違いが出てくるのでしょうか？そこで、気になって調べてみると、所得制限なく医療費が無料になる自治体は全国にもたくさんあることがわかりました。持続可能な開発目標「SDGs」の3番目には「すべての人に健康と福祉を」という項目があります。全ての子どもの医療費を無料にし、誰もが平等に病院に行けるようになれば、健康な子どもが増え、「すべての人に健康と福祉を」という目標にも近づくことができると思います。明石市のように、子育て世代がもっと宝塚市に住もうと思ってくれ、宝塚市の人口が増えるきっかけのひとつになると思います。僕は、小さい時は病気が多く、救急車に乗ったことも入院したことも何度かあります。親にはたくさん心配をかけました。そういった自分の経験もあり、僕は誰もが金銭的な負担がなく病院に通うことができしてほしいと思っています。住む場所によってかかる費用が違うのはおかしいと思います。だから僕は、宝塚市でも全世帯の子どもの医療費を所得制限なしに無料にすることを提案します。

答弁：

乳幼児・こども医療費助成制度は、県と市の共同事業として実施しており、安心して子育てができる環境づくりと子育て支援の観点から、本市の重要な施策の一つであると認識しており、現在、本市では県の所得基準を緩和し、かつ中学3年生までの医療費の一部負担金を市独自で無料にしています。

また、現在県下41市町のうち21市町が、中学3年生までの医療費助成について所得制限を廃止し一部負担金を無料にしている状況です。

なお、所得制限の廃止並びに一部負担金無料の実施に係る自治体間の違いについては、それぞれの自治体における財政状況によるところが大きいと認識しています。

本市で所得制限を廃止した場合、年間約2億3千万円のあらたな負担が発生することとなり、本市の厳しい財政状況から、市単独での所得制限廃止は困難と認識しています。そのため、県に対して、子育て支援の観点から所得制限の廃止を要望しているところ です。

なお、県においては、子どもの医療費に係る助成制度は本来全国一律の水準で実施されることが必要との考えのもと、全国知事会等の機会を捉え国に対して制度化を求めているところです。

今後も、子どもがいきいきと健やかに育つ環境づくりと、子育て世代が住みたい、住み続けたいと実感できるまちづくりを目指すためにも、制度の安定維持と更なる充実に向けて、県に対し引き続き要望していきます。

進捗状況：

実施済

進捗状況説明欄：

令和6年1月1日から、中学3年生までの医療費助成における所得制限を無くし、一部負担金なしで受診できるようになります。また、高校生については、入院医療費のみ医療費助成の対象となります。

市民交流部（医療助成課）

担当部課：環境部（環境政策課）、教育委員会（学校教育課）

議員名	建石 ゆかり	テーマ	宝塚市の自然環境の魅力を多くの人に知ってもらうためにできること
-----	--------	-----	---------------------------------

質問・提案内容（あらまし）と答弁後の対応

質問（提案）：

宝塚市は自然環境に恵まれています。例えば私が生活している地区は、逆瀬川で蛍やミヤマアカネが見られたり、ウグイスなどの美しい鳴き声が聞こえたり、桜並木があったりします。でも、それは当たり前で特別だとは考えていませんでした。私の学校では、4年生の時に『逆瀬川ってどんな川？』という取り組みで、逆瀬川を調査しました。そこで初めて、実際にいろいろな植物や生き物がいることを知りました。宝塚市に住んでいて、このような素晴らしい自然環境があることを知らずにいるのは、とてももったいないことだと思ったので、魅力を多くの人に伝え、知ってもらうことを提案します。例えば、1年以上前に学校で作ったYouTube動画も、私が担当した動画だけを見ても150回ほどしか閲覧されていません。つまり、逆瀬川についての動画があることさえも知られていないことが分かります。他にも逆瀬川の生き物に触れるイベントや蛍を見る会などがありますが、日程や募集人数が限られていて多くの人が体験できる機会がありません。宝塚市には他にもあまり知られていないけど美しい自然環境があると思います。このことから私は宝塚市のホームページに学校などで作った動画等の取り組みをリンクで貼ったり、広報などで特集を組んだりすること、他には宝塚市内の学校同士で交流する機会を作って発表しあったりしてはどうかと提案します。

答弁：

宝塚市においては、西谷地域をはじめ、生物多様性に恵まれた自然環境がたくさんあり、様々な団体の協力のもと、その保全に取り組んでいます。

逆瀬川についても、住宅街のすぐ近くでありながら、ミヤマアカネやゲンジボタルが確認できる自然豊かな場所であり、この魅力を多くの人に伝えていくことは、とても大事なことでと考えています。

そのため、ホタル観賞イベントについては、2日間にわたって実施しており、逆瀬川の生物を調べるイベントについても、応募者が多数で定員を超えたことから、急遽2回目を実施するなど、生物多様性の保全に影響のない範囲で、少しでも多くの人に自然環境の魅力に触れてもらえるよう工夫しています。

小林聖心女子学院小学校で作られた逆瀬川の動画については、よく調べられた素晴らしいものでした。現在本市においても生物多様性についての動画を作成中ですので、それを公開する際に、合わせて逆瀬川の動画へのリンクを貼りたいと思います。

本市の自然環境の魅力に気付き、地域に根付いた調査に取り組み、多様な植物や生物が存在していることを明らかにされていることは、大変素晴らしいことです。

本市では、毎年、小学生夏休み理科自由研究発表会や宝塚市立中学校理科作品展を開催しています。そこでは、身近な自然の魅力に目を向けた児童生徒の観察・実験記録や工夫を凝らした制作物、採集標本などを展示・発表しています。そのような機会に、市内の私立小中学校での取組の発表についても参加できるか、今後校長会と協議し検討したいと思います。

建石議員が学校で自然観察に取り組みられたように、市内の公立小学校でも自然学習に取り組んでいます。また、西谷地区には豊かな自然があり、宝塚自然の家での自然環境体験活動も行っています。このような取組を、もっと市民の皆さんに知ってもらえるよう、これからもホームページ等で情報発信に努めます。

建石議員のご提案のように、本市の自然環境の魅力について、市内の学校同士で交流することについては、オンライン等を使った学校間での交流を今後考えていきたいと思っています。

進捗状況：

実施済

進捗状況説明欄：

市ホームページの生物多様性に関するページに、小林聖心女子学院小学校で作られた逆瀬川の動画のリンクを貼りました。市ホームページタイトル「生物多様性とは」(ID:1025801)

環境部（環境政策課）

進捗状況：

実施予定

進捗状況説明欄：

小学生夏休み理科自由研究発表会や宝塚市立中学校理科作品展に、私立学校の児童生徒の作品を展示することにつきまして、小学校理科部会と協議し、宝塚市内の私立小学校に令和5年度の発表会に見に来ていただくご案内をし、令和6年度以降の参加についてご検討いただくようご案内をしております。また、ホームページ等での情報発信につきましては、自然に関わる学習に関わらず、学校で実施している教育活動の様子を各学校のホームページ等を活用し、地域や保護者に公開しています。

教育委員会（学校教育課）

担当部課：都市安全部（公園河川課）

議員名	前村 江美	テーマ	市内の公園整備について
-----	-------	-----	-------------

質問・提案内容（あらまし）と答弁後の対応

質問（提案）：

皆さん公園には、きっとたくさんの思い出がありますよね。しかし、現状では子供の公園使用が減っていると思われます。その理由としては、ゲーム機の普及や公園の魅力が落ちたことなどが挙げられます。そこで私は、公園整備の見直しを提案します。まず、遊具です。今、私の知っている公園には、ブランコ、鉄棒、滑り台という限られたものしか置いてありません。私がまだ幼かった頃は、公園それぞれに多様な遊具がありました。しかし、今そのほとんどが撤去されてしまい、公園の魅力が落ちている原因の1つとなっています。また、公園にもっとたくさんの年齢層の人に来てもらうために、バスケットゴールや壁打ちができる環境を造ることで、中学生は、部活の自主練をしたりする場がありません。今の広場でやろうとしても、草がはえていたり、環境が整っておらず、なかなかできない状況です。もう少し草刈りの頻度を上げたり、どんな目的の人にも使用してもらえるように今一度設備について見直してほしいと思います。近くに大型ショッピングセンターがない分のびのびくらせることは宝塚市の良いところだと思います。これからは、そこをもっとのびさせていくべきだと私は考えます。

答弁：

公園整備の見直しにつきましては、現在、本市に遊具のある公園は、約280公園で約1250基の遊具があります。遊具のほとんどは設置してからかなり年数が経過しているため、年に1回の専門家による安全点検を行っています。老朽化が進んで補修が不可能となったものや、安全基準を満たしていない古い遊具があれば、危険なため撤去しています。前村議員が幼かった頃にあった多様な遊具も、その1つと考えられます。老朽化した遊具は、計画的に修繕などを行うとともに、新しい遊具に置き換えるときには、地域の方のご意見やご要望をお聞きしながら設置しています。また、本市では、地域のニーズに合った、魅力的で特色のある公園づくりを行ってきたいと考えています。その際は、子ども達からもご意見をお聞きしたいと思います。

次に、バスケットゴールや壁打ちができる環境づくりについてですが、現在、本市には、バスケットゴールが設置されている公園が7箇所、壁打ちは2箇所あり、いずれも武庫川を渡った山手や安倉方面などの公園となります。2020年度に、光明町地域の学生の方からバスケットゴールのご要望があり、光明第4公園に設置できないか地域の方と話し合いましたが、ボールが近隣の住宅に飛び越えていく危険や騒音の課題があり、結果的にバスケットゴールの設置は見送ることとなりました。

公園にバスケットゴールや壁打ちを設置する際は、利用時の騒音や振動、利用する方の声や夜間の利用などについて、事前に地域の方と十分話し合う必要があります。バスケットゴールなどの設置が可能と思われる、ある程度大きな公園については、地域の方ともよく話し合っ、検討していききたいと思います。

次に、公園の草刈りについてですが、市民団体の方がボランティアで草刈りを行っていただいている公園以外は、専門の業者に作業をお願いし、年に3回から4回草刈りを行っています。草刈りの時期や公園の利用状況によって雑草の生え方が異なるため、公園を利用する方には、ご迷惑をお掛けする場合がありますが、雑草が成長するまでに、できるだけタイミングを見て定期的に草刈りができるよう心掛けていきます。

進捗状況：

実施済

進捗状況説明欄：

バスケットゴールの設置については、引き続き地域の方と話し合いながら検討しています。

公園の草刈りのタイミングについては、来年度から雑草が伸びっぱなしにならないよう、適切な時期を見直して、専門の業者へ依頼することとなりました。

都市安全部（公園河川課）

担当部課：産業文化部（文化政策課）、教育委員会（学校教育課）

議員名	高 雨橋	テーマ	外国人の生徒への援助を増やすことについて
-----	------	-----	----------------------

質問・提案内容（あらまし）と答弁後の対応

質問（提案）：

私は、宝塚の学校に通う外国人の生徒がより楽しい生活を送れるように、二つのことを提案します。一つ目は、日本語がわからない人に無料で家庭教師を雇う、塾に通うなどのサービスを増やすこと。二つ目は、外国人だからといったいじめや差別を学校側の取り組みで減らすことです。提案した理由を説明します。私は、5年前、10歳のときに日本に引っ越してきました。そのときは日本語がまったくわからなくて、長い間苦労していました。学校では、通訳さんが教えてくれますが、学校の勉強だけではやはり日本語の理解が遅いので、日本語を勉強できるより良い環境を増やすことで改善できると思います。そして二つ目の提案についてです。私が通う宝塚中学校では外国人を悪く思う人は少ない方だとは思いますが、やはり時々距離を感じます。このような差別やいじめを減らすための対策の一例として、もし外国人が転校してくる場合、学校で事前にその外国人の子の国について紹介したりして、期待がもっと増えると、助けようとする人や関心を持つ人も増えるのではないかと思ったからです。ぜひ一度前向きに検討していただけたら嬉しいです。

答弁：

外国人の生徒への援助を増やすことについてのうち、無料で家庭教師や塾に通うなどのサービスを増やすことについてですが、日本に来たばかりの外国人や子どもたちが、日本語や日本の生活習慣が分からないことで、様々な場面で困ったり、不安に感じたりすることは、とてもよく分かります。

本市では、国際・文化センターで、小学生以上の子どもたちを含む外国人市民が日本語を習ったり、生活の相談ができるようにしています。

また、外国人同士の交流や、日本文化を体験できるようなイベントも実施しています。特に、外国にルーツのある子ども同士が遊びやイベントを通じて知り合い、友達になることや、保護者同士の情報交換とネットワークづくりを目的として、月に1回「なないろルーツ」という交流会を開催し、学校や家庭、地域の中で暮らしやすくなることを目指しています。

加えて、今年4月から、くらんど人権文化センターでは、6歳から18歳までの外国にルーツのある子どもを対象に、月に2回、土曜日に「STワールド」という学習会を開始しています。ここでは、市国際交流協会の日本語の先生と一緒に、日本語の勉強や学校の勉強の復習をすることができます。これらの事業は、ほとんどが無料で参加できます。

本市では、これらの取組を市の広報誌やホームページでお知らせし、できるだけ多くの方々に参加してもらうことで、外国人市民やその子どもたちがより楽しく、安心して本市で暮らすことができるよう、取り組んでいます。

外国人の生徒への援助を増やすことについてのうち、外国人だからといったいじめや差別を学校側の取組で減らすことについてですが、本市でも国籍や民族の異なる外国人児童生徒が多く在籍している現状から、学校においては、国籍や民族等の「違い」を認め合い、共生する心を育むための「多文化共生」の取組に力を入れています。

外国人児童生徒が日本の学校に編入するときは不安な気持ちを抱えていることが多いので、受け入れの準備として、編入してくる児童生徒がそれまで生活していた国の文化や言葉などを紹介し、外国人児童生徒のことを理解する機会を設けるなど不安解消につながるための取組を行っています。また、異なる文化をもつ外国人児童生徒とのコミュニケーションの取り方について考える機会を設けることも、よりよい人間関係づくりを進めることにつながると考えて実施しています。

今後も外国人児童生徒が、安心して楽しく学校での生活を送ることができるように、「多文化共生」の取組をさらに進めていきます。

進捗状況：

実施済

進捗状況説明欄：

令和5年度も引き続き「なないろルーツ」と「STワールド」を実施します。
「なないろルーツ」は、令和3年度に事業を始めましたが、開始した時よりも参加者が増えています。参加者は小学生や未就学の子どもが多く、工作やけん玉、ゲームをしたり、クリスマス会をしたりして、みんなで楽しんでいます。

また、「STワールド」は去年の4月に開始しましたが、子どもたちが継続して参加し、日本語の勉強や学校の勉強の復習などに取り組んでいます。日本語の先生のほか、ボランティアの大学生のサポートで、一人ひとりに合わせた内容の勉強をしています。

このほか、様々な年齢の方が参加している国際・文化センターの日本語学習も、来年度も引き続き実施します。

これらの事業を市の広報誌やホームページで積極的に広報していくとともに、国際・文化センターでもPRしていきます。

産業文化部（文化政策課）

進捗状況：

実施済

進捗状況説明欄：

外国人児童生徒の編入があった際、学校としての受け入れ準備として、その児童生徒がそれまで生活していた国の文化や言葉などを紹介し、異なる文化をもつ外国人児童生徒とのコミュニケーションの取り方について考える機会を設け、外国人児童生徒の不安解消につながるための取組を行うよう、編入があった際に学校へ働きかけています。また年度途中も含めて、兵庫県とも調整しながら、多文化共生サポーターと本市の日本語サポーターを併せて配置できるよう対応をしています。

教育委員会（学校教育課）

担当部課：都市安全部（防犯交通安全課）

議員名	内藤 早瑛	テーマ	校区内の信号に関する提案
質問・提案内容（あらし）と答弁後の対応			
質問（提案）： 長尾中学校校区の歩行者信号の待ち時間が長く、不便に感じているところがあります。特に長尾中から北西に進んだところにあるJRの高架付近の信号に引っかかってしまうと、なかなか渡ることができません。実際、その信号の利用者は、中学生だけに限らず、JR中山寺駅を利用している大人の方や大阪芸術短期大学生も多いように思います。ただ待ち時間が長いだけでなく、危険が多くなっている現状もあります。信号待ちの時間に耐えられずに、横断歩道のない所を急に渡ったり、信号無視をしている人を何度も見かけました。そのようなことをされると、車を運転している人にとっても、非常に危険な行為でそれが続けば、大きな事故につながってしまい、信号待ちをしている歩行者も事故に巻きこまれてしまうかもしれません。自分たちが住んでいる地域が、より安全で過ごしやすい場所になってほしいと思っています。以上のことから、信号待ち時間が短くなるように改善して欲しいです。具体的な方法としては、歩行者信号が変わるまでの長さ・信号が青色になっている時間の長さが長くなるようにすること、縦方向と横方向の信号の入れかわりを早くすること、の2点を提案したいと思います。			
答弁： 信号機の歩行者側が青になっている時間の長さについては、交差点に入ってくる車の通行台数や通行する歩行者の状況、道路の幅（はば）などを調査し、警察がそれぞれの交差点ごとに信号時間の長さを設定しています。 信号機の設置や既に設置されている信号機の歩行者側が青になっている時間の長さの変更については、学校や地域の方などから警察にご要望いただくこととなりますが、市としましても、ご指摘のありました中筋（なかすじ）6丁目交差点周辺の交通状況を確認し、事故防止の啓発として、注意喚起の看板の設置などを検討したいと考えています。 なお、今回の子ども議会でいただいたご要望については、情報として市から宝塚警察署にお伝えします。 市としましては、これからも交通安全の啓発や交通事故防止に向けた取組を行っていきますが、皆さんも交通ルールを守り、交通事故に遭わないよう注意していただくことをお願いします。			
進捗状況： 実施済			
進捗状況説明欄： 今回ご提案いただいた信号機の時間の長さについては、所管する宝塚警察署にお伝えしました。			
都市安全部（防犯交通安全課）			

担当部課：教育委員会（学校教育課）

議員名	門脇 元気	テーマ	西谷中学校と宝塚の他の中学校との交流
-----	-------	-----	--------------------

質問・提案内容（あらし）と答弁後の対応

質問（提案）：

西谷中学校の生徒は小学生のころを含め、九年間同じ同級生と学校生活を送っています。それに、全校生徒は三十八人です。なので、西谷の中学生は特定の人だけでの交流が多いので他人との交流を一步引いてしまう傾向にあります。一方、宝塚市の他の中学校の生徒には、西谷中学校の生徒のような人は少ないでしょう。しかし、西谷中学校のような少人数で授業を受けたことがある人もいないと思います。そこで私は、西谷中学校と宝塚市の他の中学校との交換留学を提案します。交換留学をおこなうと、西谷中学校の生徒にも、ほかの学校の生徒にもメリットがあると思います。西谷中学校の生徒は、普段と違う人とふれあい、話すことで、社交的になるでしょう。また、他の学校の生徒は、少人数のより分かりやすい授業を受けることができます。大自然を堪能することもできるでしょう。西谷地域としても、他の中学校から生徒が来ることで西谷に興味を持ってもらい、活性化にもつながります。これらのことから私は西谷中学校と宝塚市の他の中学校との交換留学を提案します。

答弁：

西谷中学校と本市の他の中学校との交換留学につきましては、いつも通学する中学校以外の学校の生徒と交流する経験は大切です。現在、本市では、他校と交流する機会として、市内合同音楽会や駅伝大会が実施されていますが、国語や数学といった普段の授業を、他校の生徒と合同で行う取組は、実施していません。西谷中学校の生徒が、他校の授業に入り、いつもと違う環境で学習することは、とても貴重な経験となります。また、他校の生徒にとっても西谷中学校に来ることで、豊かな自然の中でゆったり学ぶという貴重な経験ができます。

交換留学は移動手段の確保等が課題となりますが、まずは市内の学校間で生徒によるオンライン交流を行うことにより、生徒のみなさんにとって豊かな学びにつながりますので、このような学習方法を検討していきます。交換留学についても、教育委員会として現状や課題を整理しながら、実施の可否について考えていきます。

進捗状況：

未実施

進捗状況説明欄：

交換留学は移動手段や児童生徒の安全確保等が課題となり、現状では実施できていません。

生徒には一人一台のタブレットがありますので、市内の学校間でオンラインによる意見交換や交流を行うことで、豊かな学びにつなげていけるような学習方法を検討しています。

交換留学については、今後も実施の可否について検討していきます。

教育委員会（学校教育課）

担当部課：産業文化部（文化政策課）

議員名	伊藤 葵	テーマ	より良い町にするために
質問・提案内容（あらし）と答弁後の対応			
質問（提案）： <p>宝塚と言えば「音楽」の街として多くの人に知られています。私は宝塚市の弦楽器アンサンブルに入っていますが、コンサートでは必ず宝塚市の音楽「鉄腕アトム」を弾きます。コンサートに来て下さるお客様の中にはこの曲を聞きに他県からわざわざ足を運んでくださる方もいるそうです。もっと多くの人に音楽を知ってほしい、宝塚の魅力を知ってほしいと思っています。宝塚の伝統を守るためにはもっと宝塚市のことを発信していかなければならないと思います。まず一つ目に提案したいのは宝塚市文化財団のキャラクター「たからん」をもっといろいろな人に知ってもらい「たからん」が主に活動している「たからんまつり」以外にも「たからん」のイベントを増やしたら良いと思います。また、それ以外にも宝塚市で有名な「音楽」を外国人にも知ってもらえるように、外国人の方でも楽しめる年に一度の音楽コンテストなどを行うことなどを提案したいと考えています。もう一つは、弦楽器アンサンブルの宣伝方法や予算案の見直しについてです。今はコロナ禍で幅広く活動をする事ができていませんが少し前までは他県での音楽活動等、幅広く活動していました。もっとたくさん他県で音楽活動をする事が出来ると他県の方にもより多くの人に宝塚市の事やアンサンブルの事を知ってもらえるかと思っています。宣伝方法や予算案の見直しを応援して頂けたらと思います。</p>			
答弁： <p>より良い町にするためにのうち、「たからん」のイベントを増やすことについてですが、宝塚市文化財団のキャラクター「たからん」は、たからんまつりのほか、ベガ・ホールやソリオホールなどで文化財団が開催するイベントの時に来場者をお出迎えしたり、市が開催するイベントにゲスト出演したりしていました。</p> <p>しかし、新型コロナウイルス感染症が世界中で流行し、多くのイベントが中止や延期となっています。現在は感染症対策を十分に実施した上で、イベントを再開しつつありますが、多くの人が集まることを避けるため「たからん」の活動は控えているところです。今後、感染の状況を見極めながら、文化財団と相談して「たからん」の出演やお出迎えを増やしていくことも検討していきます。</p> <p>次に、外国人の方でも楽しめる音楽コンテストの実施についてですが、本市では、音楽を通じた国際交流の推進と室内合唱の普及を目的として、1984年から「宝塚国際室内合唱コンクール」をベガ・ホールで開催しています。2020年以降、このコロナ禍にあって海外からの会場参加はありませんが、今年はオンライン部門を創設し、香港やインドネシアからオンラインでの参加がありました。このような国際的なコンクールを継続して開催し、音楽のまちとして国内だけでなく海外にも本市の魅力を引き続き発信していきたいと思っています。</p> <p>次に、弦楽器アンサンブルの宣伝方法や予算案の見直しについてですが、多くのイベントが中止や延期になったことで、イベントに出演していた文化団体の活動の機会も減ってしまい、大変残念に思っています。</p> <p>本市では、大分県大分市や、静岡県浜松市と音楽活動を通じた文化交流を実施しています。この交流についても2年間中止が続いていますが、他のイベントと同様に、交流の再開に向けて調整をしているところです。</p> <p>今後も交流事業を継続し、伊藤議員が所属されている弦楽器アンサンブルをはじめ、より多くの市民の皆様に文化交流に参加いただけるよう取り組んでいきます。</p>			
進捗状況：			
実施済			
進捗状況説明欄： <p>まず「たからん」の活動についてですが、2023年3月の「たからんまつり」に3年ぶりに出演することができました。今後も、文化財団と相談しながら「たからん」の出演やコンサート等でお出迎えを増やしていくことを検討していきます。</p> <p>次に、外国人の方でも楽しめる音楽コンテストの実施についてですが、2022年の「宝塚国際室内合唱コンクール」では、オンライン部門を設けて海外から参加いただきましたが、2023年は4年ぶりに、ベガ・ホールの会場で海外の合唱団に出場していただくことができました。</p> <p>最後に、弦楽器アンサンブルの他県での活動についてですが、本市と大分市、浜松市との音楽交流については2年間中止していましたが、2022年に再開し、2023年は伊藤議員が所属されているアンサンブルに、浜松市の演奏会に出演いただき、アンサンブルと宝塚市をPRしていただきました。</p> <p>今後も、より多くの市民の皆様に文化活動に参加いただけるよう取り組んでいきます。</p>			
産業文化部（文化政策課）			

担当部課：都市安全部（防犯交通安全課、道路管理課）

議員名	藤原 愛	テーマ	出会い頭事故を防ぐために
-----	------	-----	--------------

質問・提案内容（あらかし）と答弁後の対応

質問（提案）：

私は、曲がり角や見通しの悪い道で起こる出会い頭事故について提案します。宝塚市に住む友達が買い物をするために、家の近くにある狭くて、見通しが悪い国道176号付近の道を通っていたそうです。その道には曲がり角があったのですが、車などが来ないかを確認して通ろうとしたら、曲がり角の向こうにいたバイク側からは見えておらず接触してしまい、ケガをしたことがあるという話を聞きました。その道にはカーブミラーや事故防止を呼びかける看板などが無く、先程お話をさせて頂いたような事故が度々起こりそうになっているということも聞きました。歩行者側が道を通る時に、左右をしっかりと見て車などが来ないかと確認するということや、車やバイクに乗っている側が速度を出し過ぎない、人が通ろうとしていないかを確認することはもちろん大切です。ですが、宝塚市民全員がより安全に住める街にするには、カーブミラーや事故防止を呼びかける看板などを設置することも大切だと思います。カーブミラーを設置すれば、向こう側から相手が来ていないかが分かりやすくなりますし、事故防止を呼びかける看板を設置すれば、市民の皆さんの事故防止への意識が高まると思います。このような取り組みを行い、事故によってケガをしてしまう人や、命を失ってしまう人が1人でも少なくなればいいなと思います。

答弁：

本市では、市内の交通事故が起こりやすい危険な箇所について、学校や地域の方などからご要望をいただき、注意喚起の看板を設置するなど、交通安全対策に取り組んでいます。

今回、危険な目に遭われた事案については、地元の自治会の方などと相談させていただいたうえで安全対策を検討したいと考えています。

市としましては、これからも交通安全の啓発や交通事故防止に向けた取組を行っていきますが、皆さんも交通ルールを守り、交通事故に遭わないよう注意していただくことをお願いします。

次に、カーブミラーの設置についてですが、カーブミラーは車の運転手が他の車を確認することを目的としています。

カーブミラーの設置については、自治会や地域の方からの要望があった場合に、まず、事故の防止に有効か確認し、その上で、カーブミラーを設置できるか確認しています。

今回も、まずカーブミラーの設置が事故防止に有効か、現地で確認します。

なお、カーブミラーは、曲がり角における道路状況の全てが映っているとは限らず、道路状況を確認する補助的なものです。カーブミラーが設置されている場所でも、曲がり角に進入する際の左右の安全確認は自分の目で行い、十分に注意して通行してください。

進捗状況：

未実施

進捗状況説明欄：

今回ご提案いただいた、交通事故が起こりやすい危険な箇所への注意喚起看板設置等の対策については、現時点では、地域や学校から具体的な要望はいただいておりませんが、市民のみなさんが安全に市内の道路を利用していただけよう、啓発を継続的に行うとともに、地域要望をいただいた場合は、看板の設置を検討したいと考えています。

都市安全部（防犯交通安全課）

進捗状況：

未実施

進捗状況説明欄：

改めて現地状況を確認し、宝塚市が定めるカーブミラーの設置基準に照らし合わせましたが、カーブミラー設置の目的である車と車の事故防止に有効とは言い難いため、カーブミラーの設置は出来ません。曲がり角に進入する際には左右の確認は自分の目で行い、十分に注意して通行していただくようお願いいたします。

都市安全部（道路管理課）

担当部課：教育委員会（学事課、学校教育課）

議員名	池田 蒼生	テーマ	ランドセル寄附制度の開設
-----	-------	-----	--------------

質問・提案内容（あらし）と答弁後の対応

質問（提案）：

今回、私は「ランドセル寄附制度の開設」を提案します。提案の目的は2つあります。
1つ目は「多くの小学生に好きな色のランドセルを渡す」です。現在ランドセルは1つ約4万2400円と高価で、ひとり親世帯や低所得世帯などでは「欲しがるランドセルを買ってあげたいが、買ってあげられない」という現状があります。2つ目は「6年間使ったランドセルのその後を提供する」です。私は小学校卒業後、6年間使ったランドセルをどうしようかと迷い、半年ほど家のタンスにしまっていました。そんな時、ランドセルを海外の貧しい子供たちに寄附するという団体を知りました。しかし寄附するためには配送料として、約5000円かかりました。この事業を市内で行うことができれば、コストが抑えられるうえ、身近な場所で自分の寄附が生かされていることを実感できると思うので提案します。これは、次世代のチャリティー精神を芽生えさせるはずで

答弁：

ランドセルの寄附制度につきましては、企業や公益財団法人、非営利団体などが使わなくなったランドセルを回収し、海外の子どもたちに贈る取組を実施されています。

また、池田議員がご指摘のように、寄附の際に配送料として一定の金額が必要となり、寄附者にとって負担が発生しています。

ランドセルの再利用は、ひとり親世帯や低所得世帯に配慮した素晴らしい取組であり、次世代のチャリティー精神を芽生えさせる絶好の機会となります。

本市の一部の学校では、既に中学校の制服や小中学校の体操服で、比較的綺麗なものは、学校のPTAに寄附していただき、PTAから希望する児童生徒に配布しています。

制服や体操服では、身体(からだ)の成長に合わせて買い替えが必要となり、買い替えて間もない制服や体操服を捨てるのはもったいないという考え方から始まったものです。

ランドセルについては、最長で6年間使用しており、長期間使用すると、その分、傷みも激しいことから、寄附を受けるには、綺麗であることなど、一定の条件が必要になります。また、ランドセルを保管するための場所も必要となることから、各学校やPTAとも協議し、ご提案いただきましたランドセルの寄附について、有効な方法を考えていきます。

進捗状況：

未実施

進捗状況説明欄：

ランドセル寄附制度の開設につきましては、ランドセルを配送する際の費用やランドセルの保管場所の確保が課題となっており、現状、開設に至っていません。既に中学校で行われている制服リサイクルの仕組みを参考としながら、今後も使用済みランドセルの有効な活用方法を検討していきます。

教育委員会（学事課、学校教育課）